



# 文献調査の今後について

～国が新たに「特定放射性廃棄物小委員会」を設置、第1回が10月13日に開催されました～

国の原子力小委員会の下位機関であった放射性廃棄物WGが廃止され、電力・ガス事業分科会の下に「特定放射性廃棄物小委員会」が設置されました。文献調査実施地域の拡大に向けた取組・検討課題へ対応していくことになります。

## 流れの概要

文献調査開始

文献・データ収集

評価

報告書作成

報告書を  
知事・市町村長に送付

公告・縦覧

意見の受付

説明会の実施

寄せられた意見の概要及び  
それに対する見解を作成

意見概要、見解を  
知事・市町村長に送付

## 「文献調査段階の評価の考え方（案）」 パブリックコメント結果を報告、とりまとめへ

「断層の破碎帯の規模が過小評価されているのではないか。」などの技術的な意見、「環境社会学、環境経済学、環境倫理学等の観点からも検討が必要ではないか。」などの経済社会的観点に関する意見など53件のご意見が寄せられました。国はこれまでの検討結果を踏まえ、11月2日に「文献調査段階の評価の考え方」をとりまとめ、公表しました。

## 「文献調査報告書」の縦覧・説明会開催の期間を見直しへ

文献調査報告書の内容について丁寧な説明を行うようにのご意見なども踏まえ、現行の関連法施行規則に定められた同報告書の「公告・縦覧」「説明会の開催」を行う期間について、現行の1月間を1月間以上に設定できるように見直すこととし、国は11月14日まで同規則の省令改正についてパブリックコメントを実施。今後開催される同小委員会で結果が報告される予定です。

## 進捗報告 全国行脚（国を挙げた体制構築）

国・NUMO・電力の合同チームでは、2023年10月末時点で43市町村の首長を訪問、最終処分事業について「地域住民への理解活動が重要」などのコメントを得た旨が報告されました。少なくとも100自治体を当面の目標としつつ、複数年かけて科学的特性マップの全てのグリーン沿岸部を訪問することを目指しています。

## TOPIC

### Q. 対馬市での文献調査に関する議論は、 どのような結果になったのですか？

A. 対馬市議会は、文献調査の受入れ促進に関する請願について、2023年8月16日特別委員会および9月12日定例会本会議において採択、同月27日市長は、市民の合意形成の不十分さなどを理由に、「文献調査を受け入れない」との意見を表明されました。



当機構による地層処分事業のご説明  
(8月特別委員会 提供：対馬市)

対馬市の皆さまには、地層処分事業に関心を持っていただき、対馬市議会におかれましては、慎重にご審議の上、関連の請願を採択いただき、さらに対馬市長におかれましても検討を重ねていただいたことに深く感謝を申し上げますとともに、NUMOといたしましては市長の意見表明を受け、これからも国や各地域の電力会社と協働して全国各地で必要な情報提供を行うとともに、丁寧な対話活動に取り組み、文献調査の実施地域の拡大を目指し、誠心誠意努力してまいります。

**NUMOでは、全国のできるだけ多くの地域で、地層処分事業に関心を持っていただき、文献調査を受け入れていただけるよう、引き続き取り組んでまいります！**